

平成30年度 福島区社会福祉協議会 事業報告

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

近年、福島区の人口は高層マンション等の建設により、年々増加傾向にあり、高齢者を含む一人世帯の増加、介護や子育ての問題、児童・高齢者・障がい者等の虐待問題、子どもの貧困や生活困窮をめぐる生活問題、特殊詐欺被害を含む消費者問題等、近隣や地域との関係の希薄化も含め、地域における福祉課題が多様化・重複化しているのが現状である。

こうしたなか平成30年度は、福島区社会福祉協議会 社会福祉法人設立25周年を迎え、11月7日に福島区社会福祉記念大会を開催した。

30年度新規に認知症高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、認知症高齢者を見守り、支援する体制の構築を目指すとともに、地域において認知症高齢者の支援や認知症に関する市民の正しい理解の促進を図ることを目的とした認知症サポーター地域活動促進事業を平成30年4月より福島区を含め3区がモデル事業として実施。また、老人福祉センター並びに大阪市生活困窮者自立相談支援事業の公募に応募し、2019年度より引き続き受託することができた。

平成30年度は、大阪府北部地震・平成30年7月豪雨・台風21号・北海道胆振東部地震等、全国的に大規模な自然災害に見舞われた。平成30年7月豪雨災害の被災地支援として、倉敷市災害ボランティアセンターに9月20日～9月24日まで職員1名を派遣。2月24日に、区社協災害対策本部・災害ボランティアセンター設置・運営訓練、福祉避難所開設訓練を実施。今後も引き続き、大規模災害に備え実践に向けた訓練を地域・ボランティア・関係機関とともに取り組んでいく。

1. 会 議

平成30年 5月14日 監事による会計監査

5月23日 ボランティア・市民活動センター運営委員会

- 5月30日 善意銀行運営委員会
- 5月30日 理事会
- 6月15日 評議員会
- 6月15日 理事会
- 6月15日 地区・校下社協会長会
- 6月15日 地域ネットワーク委員長会
- 6月29日 ボランティア・市民活動センター運営委員会
- 10月10日 福祉基金(植本・手嶋基金、小林基金)運営委員会
- 11月 7日 福島区社会福祉大会
- 12月25日 地区・校下社協会長会
- 12月25日 地域ネットワーク委員長会
- 平成31年 3月12日 ボランティア・市民活動センター運営委員会
- 3月18日 理事会
- 3月18日 地区・校下社協会長会
- 3月18日 地域ネットワーク委員長会
- 3月25日 評議員会

2. 事業概要

(1) 会員の募集

- ①基本会員(役員・組織構成会員): 78人 (前年度81人)
- ②賛助会員 個人:282人 団体:25団体(前年度個人:304人 団体:29団体)

(2) 地域福祉活動推進支援

①地区・校下社協活動等への支援

地域の高齢者や障がい者、児童など誰もが地域で安心して生活できるよう地域住民の参加と協力による支えあい、助けあい活動を小地域で実施する事業推進のための支援を行なった。

ア 地区・校下社協会長会の開催(全3回)

イ 地域ネットワーク委員長会の開催(全3回)

- ウ 子育てサロン連絡会の実施（1回）
- エ コミュニティサロン連絡会の参画（全6回）
- オ 地域福祉コーディネーター連絡会の参画（全12回）
- カ キャラバン・メイト連絡会の参画（全10回）
- キ 認知症サポーター養成講座への参画（全12回）
- ク 小地域福祉活動リーダー研修会

開催日：平成30年9月5日（水）

内容：ふくしま地域ささえあい交流会

I部 講演「みんなでつくろう、たすけあいのまち」

講師 公益財団法人さわやか福祉財団 翁川由希 氏

II部 たすけあい体験ゲーム

参加人数：91人

- ケ 地域福祉活動カレンダーの作製 4,000部
- コ 地域子育て応援マップの作製 5,500部
- サ 子育て情報紙「フッピーキッズ」34号、35号、36号の発行支援

②地域福祉推進への参画・推進

- ア 地域カルテ作成会議への参画（2回）
- イ こどもの居場所づくり立ち上げに向けての協議の場設定と支援（5回）
- ウ 障がい者に対する防災の取り組みの共有会議参加（1回）

③地域支援システムの推進・参画

- ア 高齢者支援部会の開催（全4回）
- イ 高齢者虐待防止連絡会議の参画（1回）
- ウ 自立支援協議会の参画（4回）
- エ 子育て支援連絡会の参画（2回）

(3)福島区社会福祉施設連絡会の運営

- ①連絡会の開催（全3回）
- ②福祉イベント『第17回あいあいまつり』（福島区民センター）への参加

開催日：平成31年2月9日(土)

内容：施設紹介コーナーの設置

[ステージ] 福島区に関する〇×クイズ

③社会福祉施設連絡会職員向け研修会の実施

開催日：平成30年9月7日(金)

内容：『接遇研修』

講師：(株)マンズ・リソース 星野 恵子 氏

④地域貢献

ア 保育所(園)の保育士が地域の「子育てサロン」で歌あそび、手あそび、読み聞かせ、体操等を実施(11回)

イ 高齢者施設の職員が中学校での福祉教育で車椅子体験、高齢者疑似体験を協力(1回)

ウ 夏休みボランティア体験2018の開催

小学校3年生から高校生を対象に施設連絡会参加施設でボランティア体験を実施。

体験期間：平成30年7月23日(月)～8月24日(金)

参加者：7人(小学校3年生～高校2年生)

体験施設：5施設

(4) 広報・啓発活動の推進

①機関紙「福島区社協あいあいだより」の発行(タブロイド版4面)

第74・75・76号(平成30年4月・8月・12月) 各26,000部発行

②子育て情報誌の発信

ア 子育て情報紙『フッピーキッズ』の発行支援(年3回)

イ 地域子育て応援マップの作成・発行(5,500部)

③インターネットや回覧等による情報提供

ア 区社協ホームページで区社協事業や福祉・ボランティア活動に関する情報提供

イ 区社協フェイスブックによる情報発信(46回)

ウ あいあいまつり、ボランティア養成講座等のチラシ・ポスターの掲示、回覧

④その他

ア 区社協パンフレットの作成(4,500部)…福島区民まつり・福島区社会福祉大会・あいあいまつり・福島区転入者に配布

イ 区社協事業広報うちわの作成(3,000枚)…全地域に配布

(5)ふれあいイベントの開催

第17回あいあいまつりの開催

区内の社会福祉施設、ボランティア、地域活動協議会などによる日頃の活動紹介・交流や福祉について啓発を行なった。

開催日：平成31年2月9日(土)

開催場所：福島区民センター

参加人数：約1,200人

(6)福島区ボランティア・市民活動センターの運営

①情報の収集・発信(啓発・広報)

福島区社協だより、広報ふくしま、ボランティア活動情報誌『COMVO』等にボランティア講座受講生募集・イベントの周知・ボランティア活動者募集・助成金周知等の記事の掲載を行なった。

②事業企画

ア 障がい児スポーツ・レクリエーションひろば

開催日：平成30年8月8日(水)

開催場所：福島区民センター

参加人数：53人

イ ハッピーヘアサロン@大阪福島

開催日：平成30年8月23日(木)

内容：障がい児とその保護者への無料ヘアカット

開催場所： あいあいセンター 会議室

参加人数： 32 人(うち子ども 20 人)

③ネットワークの構築

ア ボランティア・市民活動団体連絡会(全 2 回)

イ 福島区コミュニティサロン連絡会の参画(全 6 回)

ウ 第 3 回企業・NPO交流会 in Fukushima

開催日： 平成30年9月6日(木)

内容： 講義 「帰宅困難者対策の現状」

演習・ワークショップ 「災害備蓄品の体験」

講師 ビズネット株式会社 雫石 佳延 氏

参加人数： 9団体18人

エ あいあい音楽カフェの開催(全11回)

福島区ボランティア・市民活動センター登録ボランティアによる演奏

参加者： 延べ225人

④活動への支援

ア 福島区内で活動している福祉に関するボランティアグループ・団体に対して、助成金を交付し活動を支援

○福島区ボランティアグループ助成金:8団体310,000円交付

○福祉ボランティア活動応援資金:6団体208,000円交付

○福祉基金:植本・手嶋基金9団体410,000円、小林基金3団体250,000円交付

イ ボランティアグループへ場所・備品(印刷機、紙折り機、拡大機)等の提供

○会議、練習等活動のための部屋の利用(18団体利用)

○活動に必要な資料等作成のため印刷機等の使用(51団体利用)

ウ ボランティア研修会の開催

エ 助成金勉強会の開催

⑤福祉教育・研修の推進

開催日	内 容 ・ 場 所	参加人数
6月12日	福島小学校 2年生 「発達障がいについて」	68
6月22日	福島小学校 6年生 当事者講話「障がいについて」 車いす体験・高齢者疑似体験	55
6月13日 7月23日	オムロンソーシアルソリューションズ株式会社 大阪事業所社員 講義「社会福祉協議会について」 高齢者疑似体験・車いす体験・アイマスク体験	13
9月1日	下福島中学校 1年生 高齢者疑似体験・車いす体験・アイマスク体験	191
10月13日	野田中学校 1年生 高齢者疑似体験・車いす体験・アイマスク体験	112
1月28日	人事院職員 車いす体験・アイマスク体験	20
1月29日	海老江東小学校 4年生 当事者講話「障がいについて」 車いす体験・高齢者疑似体験	47
1月29日	海老江東小学校 4年生 当事者講話「障がいについて」 車いす体験・高齢者疑似体験・アイマスク体験	56
2月2日	大開小学校 防災授業 1年生 発達障がいについての出前授業 4年生 語り「希望の木」、「ひさの星」ほか	98
2月5日	福島小学校 5年生 当事者講話「聴覚障がいについて」 体験：手話・口話・空書・筆談	59

2月15日	八阪中学校 1年生 当事者講話「障がいについて」	126
2月20日	八阪中学校 1年生 高齢者疑似体験・車いす体験・アイマスク体験	126
3月4日	福島小学校 3年生 「目が見えない・見えにくいってどんな感じ？」 当事者講話・針治療デモンストレーション・アイマスク体験	49

⑥ボランティア活動支援(396件)

活動登録・ 需給調整	相談・問合せ 対応	グループ等へ の支援	ボランティア の養成	福祉教育 の推進
241件	45件	58件	23件	29件

⑦ボランティア活動の紹介(平成30年度末)

ア 個人・団体登録状況

個人登録者:59人 団体登録数:65団体(前年度:個人53名、団体62団体)

イ ボランティア活動回数 2,822件(前年度:3,122件)

ウ ボランティア活動延人数 13,010人(前年度:13,063人)

⑧ボランティアの養成・育成

養成講座名	開催数	参加者(延べ)
傾聴ボランティア養成講座	3回	25人
災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座	3回	12人
おもちゃドクターボランティア養成講座	2回	9人
精神保健福祉ボランティア養成講座	5回	81人
はじめてのボランティア体験講座	4回	17人
歌体操ボランティア養成講座	2回	9人
ボランティア研修会(認知症の人をささえるまち大阪プロジェクト)	1回	14人
ボランティア勉強会(助成金申請について)	1回	15人

⑨ボランティア総合保障制度(ボランティア保険)受付業務

個人ボランティアおよび諸団体・グループのボランティア活動を対象にボランティア活動中の予測しえない事故を補償する『ボランティア活動保険』および、行事中の事故に対応する『ボランティア・市民活動行事保険』等への加入を促し、その受付業務を行なった。

ボランティア活動保険	Aプラン	86件	511人
	Bプラン	18件	139人
	Cプラン	23件	246人
ボランティア・市民活動行事保険	A区分	326件	8,579人
	B区分	0件	0人
	C区分	1件	100人
	宿泊:1泊2日	1件	44人
非営利・有償活動団体保険		4件	27人
移送中事故傷害保険		受け付けなし	

⑩災害ボランティアセンターに関する業務

ア 災害訓練に向けた区社協職員事前研修(全2回)

イ 訓練に向けた事前協議(2回)

ウ 災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座(全3回)

エ MCA無線通信訓練(2回)

実施日：平成30年9月3日(月)・12月1日(土)

オ 第3回企業・NPO交流会 in Fukushima(1回)

カ 上福島地域避難所開設訓練事前ワークショップ参加

開催日：平成30年10月24日(水)・11月6日(火)

キ 上福島地域避難所開設訓練参加

開催日：平成30年11月18日(日)

ク 区社協災害対策本部・災害ボランティアセンター設置、福祉避難所開設訓練の実施

実施日：平成31年2月24日(日)

参加人数：64人

ケ 災害用品の購入(備品及び備蓄用品)

(7)障がい者福祉に関する事業

- ①点字本・点訳絵本の作成と貸出・寄贈
- ②福島区広報ふくしまの朗読テープ作成と貸し出し

(8)地域福祉に関する事業

①車椅子貸出事業

区内在住・在勤の方対象に、車椅子の貸し出し(2週間)を実施

貸出し件数:155件(保有台数18台)

②スロープ貸出事業

区内在住・在勤の方を対象に、貸し出し(短期間:2週間程度)を実施

貸出し件数:0件(保有台数6台)

③福祉用具貸出事業の実施

高齢者疑似体験セット・アイマスク・車いす・車いす用スロープ

貸出し件数:3件(162人利用)

(9)高齢者福祉に関する事業

高齢者敬重訪問…平成30年度中に満100歳を迎える高齢者(対象者7人)に、記念品を贈呈。区社協会長・区長による訪問は台風の為、中止。

(10)善意銀行の運営

- ①ボランティアグループ・団体等への払出し 7件
- ②歳末助け合い運動に対する払出し 4件
- ③各種行事等に対する払出し 3件

(11)地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業

平成27年4月より「見守り相談室」をあいあいセンターに設置。地域と行政が要援護者の情報を共有することで、孤立死の予防や災害時の避難支援、また認知症高齢者等の行方不明時の早期発見を図る。

機能①要援護者名簿に係る同意確認・名簿整備

同意書を対象者に郵送または調査員の訪問により同意確認を行なった。

- 対 象 : ① 65歳以上高齢者で要介護3以上の方または要介護2以下で日常生活自立度Ⅱ以上の方、区要援護者名簿登録者
- ② 身体障がい1・2級、視覚・聴覚障がい3・4級、音声・言語機能障がい3・4級、肢体不自由3級知的障がいA、精神障がい1級
- ③ 難病患者(医療機器などへの依存度の高い人)

ア 同意確認書の郵送(再発送含む)

第1回目	8月20日	522人
第2回目	2月28日	476人
合 計		998人

イ 返信 347人 (返信率35.5%)

同 意: 263人 不同意 : 84人

ウ 訪問 250人 (回答率 32.2%)

同 意: 56人 不同意 : 20人

エ 地域へ要援護者名簿の提供 平成30年11月1日発行

提供先:各地域の地域振興会、地区・校下社会福祉協議会
民生委員児童委員協議会、地域女性団体協議会

オ 第2回北ブロック見守りサミット ～知りたい、伝えたい、地域の見守り活動～

テ ー マ: 超高齢社会におけるマンション居住

内 容: 長谷工総合研究所 吉村 直子氏の基調講演

5区(北・都島・福島・淀川・東淀川)の各区1事例発表

日 時: 平成31年1月24日(木)午後2時～4時

場 所: 北区民センター

参加者数： 225人

カ 福島区見守りシンポジウム

テーマ： 見守りから始まる共生社会

内容： 関西大学社会学部 松原教授の基調講演
5地域の見守り活動事例発表

日時： 平成31年3月7日(木)午後7時～9時

場所： 福島区役所 6階会議室

参加者数： 150人

機能②孤立世帯への専門的対応

ア 相談実人員 262人

男性 :118人 女性 : 143人 不明 :1人

イ ひきこもり親の会「しまりす会」開催

奇数月第2土曜日 全6回 参加者数 延25人

ウ ペアレントトレーニング講座開催

6月～9月 全5回 受講者数 延53人

エ 子育て支援講座「愛着に課題のある子どもの理解と支援」

8月18日 参加者数 75人

機能③認知症高齢者等の行方不明時の早期発見

ア 発見協力者 民生委員89人 各種団体 61団体
地域活動者 32人

イ 事前登録者 44人(男性:20人 女性:24人)

ウ 行方不明発見依頼 5件

配信依頼:区外3件 広域2件

発見場所:区内1件 区外3件 府外1件

エ 徘徊認知症高齢者位置情報探索事業(GPS利用) 2件

オ 警察からの支援対象事案情報提供

42件 (実人数 男性14人、女性19人)

(12)生活困窮者自立相談支援事業

平成27年4月1日から大阪市より受託し、福島区役所3階に、「生活あんしん

相談窓口(生活自立支援相談窓口)」を開設。新たに平成28年4月1日から受託し、相談・支援を行い、平成31年度も引き続き受託している。

①新規相談受付件数(本人特定、本人同意なしを含む)・・・225件

(内、本人特定・本人同意ありの「新規相談申込件数」は193件)

※前年度は新規受付件数:182件

【性別内訳】

男性:102件 女性:106件 不明:17件 計225件

【年代別内訳】

～10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳～	不明	合計
2件	21件	35件	25件	27件	14件	67件	34件	225件

②支援実績(支援実施延べ回数) 計3,774回 ※前年度2,242回

電話相談・連絡	986	訪問・同行支援	175
面談	1,247	所内会議	39
支援調整会議(プラン策定)	94	支援調整会議(評価実施)	44
他機関との会議	48	他機関との電話照会・協議	1,031
その他	110	合計	3,774

(13)生活支援体制整備事業

平成29年11月より生活支援コーディネーターを配置し、高齢者一人ひとりが住み慣れた地域で、その有する能力に応じて自立した日常生活を安心して営むことができるよう、多様なニーズや社会資源の実態を把握して、必要なサービスや社会資源を創出するよう努めた。

①ニーズと地域資源の把握・ネットワークの構築

ア 生活支援ニーズ等の把握

ふくしま地域ささえあい交流会、平成30年度福島区コミュニティサロンフォーラムにてアンケート実施。

イ 協議体の開催(全4回)

開催日:平成30年5月10日(木)、平成30年9月13日(木)

平成30年11月8日(木)、平成31年3月14日(木)

②講座等の開催

ア ふくしま 地域ささえあい交流会

開催日：平成30年9月5日（水）

内容：基調講演「みんなでつくろう、たすけあいのまち」、
たすけあい体験ゲーム

開催場所：福島区民センター

参加人数：91人

イ 平成30年度 福島区コミュニティサロン講座 全3回

開催日：平成30年10月16・23・30日

内容：講義「コミュニティサロンってどんなところ？」・子ども食堂見学
福島区コミュニティサロン紹介・交流会

開催場所：あいあいセンター、あずきちゃん食堂（平野区）、
夢うららほっとステーション（八尾市）

参加人数：延べ41人

ウ 平成30年度 大阪市コミュニティサロン交流会

開催日：平成30年11月29日（水）

内容：講義「コミュニティサロンの今、これから」・事例発表・座談会

開催場所：福島区民センター

参加人数：40人

エ 平成30年度 福島区コミュニティサロンフォーラム

開催日：平成31年1月30日（水）

内容：基調講演「だれもが安心して暮らせるまちづくりをめざして」、
事例発表、パネルディスカッション

開催場所：福島区民センター

参加人数：141人

③サービス実施情報の周知

フェイスブックを活用し、活動写真添付・活動紹介を行った。福島区コミュニティサロンカレンダーを2ヶ月毎に作成し、地域の掲示板や福島区コミュニティサロン連絡会、区社協HP等で周知をおこなった。

④その他

生活支援体制事業について、地域に出向いてチラシを配付するなどし、事業説明等を実施。また、介護予防推進に必要な物品の貸し出し等を通して、活動支援等を行った。介護予防運動用品の貸し出しは14件あった。

(14)地域の福祉活動サポート事業及びふくしま暮らし支え合いシステム事業

①地域の福祉活動サポート事業

平成28年度より、各地域のコミュニティセンターや福祉センターに相談窓口「みんなの相談室」を設け、地域事情に詳しい人材を「地域福祉コーディネーター」として配置。相談や情報提供、地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業の推進等に取り組んだ。

また、毎月1回事務連絡会を定例開催し、情報交換の他に研修を実施し、資質向上を図った。

ア 相談・安否確認・見守り把握・開室日数など

○相談ならびに安否確認を含む件数…8,989件

訪問：1,699件 来館：7,243件 電話：47件

○見守り・状況把握

延べ人数 26,903人（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

○開室日数（延べ日数）…2,015日（平日1,956日・休日59日）

イ 地域福祉コーディネーター事務連絡会 実施内容

	開催日	主な内容
1	4月6日	○平成29年度の振り返り ○平成30年度の活動について
2	5月11日	○救急カプセルについて ○地域福祉コーディネーター業務の中で感じている課題について ○出てきた課題の解決について
3	6月1日	○地域福祉コーディネーター業務の中で感じている課題のふりかえり ① 連携したい(つながりたい)組織・団体・個人など ② あればよいなど考える仕組みやサービス(社会資源)など
4	7月6日	○区社会福祉協議会新役員体制について ○6月18日の大阪北部地震に対する情報提供・近況報告
5	8月3日	○ふくしま地域支え合い交流会参加及び受付について ○福島区社会福祉大会の運営協力について ○福島区民まつりの出展と運営について ○「災害発生時の安否確認活動について」意見交換・検討等
6	9月7日	○福島区社会福祉大会の運営協力について ○各地域の高齢者実態調査内容と実施方法などの共有

		○福島区民まつりの出展と運営について
7	10月5日	○福島区社会福祉大会の運営協力について ○福島区民まつりの出店と運営について
8	11月2日	○災害時避難所開設等について ○福島区民まつりの活動報告と次回に向けて ○福島区社会福祉大会の開催について
9	12月7日	○特殊詐欺の現状と防止対策について ～地域福祉コーディネーターに期待すること～ 報告:大阪府福島警察署
10	1月11日	研修「利用者支援からみえる、精神障がい者の地域での生活課題を知る」 講師:社会福祉法人はづき福祉会 水本 英美氏
11	2月1日	○見守り、安否活動、相談、関係機関との連携の情報共有と近況報告
12	3月1日	○2019年度(平成31年度)に関すること 地域福祉コーディネーターの事務連絡会の日程・活動日誌の提出期限日・高齢者支援部会の出席委員について等 ○こんな時はどうする?高齢者の相談から考える

ウ 地域福祉コーディネーター研修会運営協力・受講一覧

1	9月5日	福島地域ささえあい交流会
2	1月24日	第2回北ブロック見守りサミット (北区民センター) 「知りたい、伝えたい、地域の見守り活動」
3	1月30日	福島区コミュニティサロンフォーラム (福島区民センター)
4	3月7日	福島区見守りシンポジウム 「見守りから始まる共生社会」

エ 周知、広報等

○あいあいだよりに掲載

○区民まつり、あいあいまつり、新橋筋商店街百縁商店街(2回)でチラシ配布

②ふくしま暮らし支え合いシステム事業

公的サービスの対象とならない軽微なニーズに対して、地域住民の中から、有

償ボランティア(サポーター)を募り援助する本事業について、平成28年度より福島区社会福祉協議会が受託し運営を行った。

ア 利用者・サポーター登録数

利用者登録者数			サポーター登録者数		
男性	女性	計	男性	女性	計
92人	296人	388人	23人	56人	79人

※平成30年3月末現在と比較して

- ・利用者登録者数は、計42人増(男性17人・女性25人)
- ・サポーター登録者数は、計3人増(男性2人・女性1人)

イ マッチング数

合計768件(男性依頼者186件、女性依頼者582件)

ウ サポーター研修・交流会 実施内容

	開催日	主な内容
1	7月30日	「シニアが笑顔で暮らせる為の片付けかた」 講師：一般社団法人日本ライフオーガナイザー協会 大西 典子氏
2	9月25日	「大地震にそなえてできること」 講師：NPO法人「人・家・街安全支援機構」専務理事 大石 正美氏
3	11月21日	「火事を知り、火災から身を守る！」火災調査官が語る！！ 講師：大阪市消防局予防部予防課調査鑑識火災調査官 中田脩介氏
4	1月30日	福島区コミュニティサロンフォーラム I部 基調講演 「だれもが安心して暮らせるまちづくりをめざして ～コミュニティサロンの魅力～」 講師：桃山学院大学名誉教授 石田 易司氏 II部 事例紹介 III部 パネルディスカッション
5	2月19日	「認知症の人をささえる大阪プロジェクト」 ～かまへん、かまへんでつながる地域の輪～ I部 認知症とは 講師：天王寺区キャラバン・メイト 濱崎 勲氏 II部 みんな元気にLet's「コグニサイズ」 III部 当事者からのメッセージ 横田 宏之氏
6	3月16日	見学会 ATCエイジレスセンター

(15)その他

①日赤会費(社資)事務への協力

②大阪府共同募金会事務への協力

実施期間 : 平成30年10月1日～平成31年3月31日

内 容 : 街頭募金活動への協力、助成金配分申請・内容の周知

③大阪府生活福祉資金(申込窓口)への協力

ア 緊急小口資金

電話対応・・・163件 面談回数・・・46回

申込み3件(うち、受理2件、不受理1件)

イ 福祉費

電話対応・・・113件 面談回数・・・33回

申込み2件(うち、受理2件、不受理0件)

ウ 総合支援資金

電話対応・・・75件 面談回数・・・24回

申込み1件(うち、受理1件、不受理0件)

エ 教育支援資金

電話対応・・・58件 面談回数・・・25回

申込み4件(うち、受理4件、不受理0件)

オ 臨時特例つなぎ資金

電話対応・・・0件 面談回数・・・0回

申込み0件

カ 不動産担保型生活資金

電話対応・・・4件 面談回数・・・1回

申込み0件

④その他

ア 大阪市社会福祉大会への参加

開催日 : 平成30年10月19日(金)

イ 福島区民まつりへの参加

開催日：平成30年10月20日(土)
内容：区社協広報活動、手づくりおもちゃ広場、岡山県物産販売、バルーンアート

ウ 社会福祉法人設立25周年記念 福島区社会福祉大会

開催日：平成30年11月7日(水)
開催場所：福島区民センター
参加人数：約450人

3. 公益事業・介護保険事業・指定管理運営事業

(1)地域包括支援センター運営事業

高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活を継続することができるよう、介護予防対策や状態に応じた介護・医療のサービスが切れ目なく提供できることを目指し、地域高齢者の心身の健康の維持・生活の安定のために必要な援助、支援を包括的に提供する。また高齢者虐待の防止および対応や判断能力を欠く状況にある人への支援を行う。

①総合相談支援

様々な相談に的確に対応できるよう、福祉・保健・医療等関係機関と連携し、本人・家族・近隣住民・地域等からの相談に対応。また、下福島・野田在宅サービスステーションに総合相談窓口を委託し、各地域の相談に対応。

相談機関	延べ相談件数
地域包括支援センター	5,722件(前年度3,798件)
在宅サービスステーション(下福島・野田)	2,236件(前年度2,235件)

②権利擁護・高齢者虐待防止への取り組み

ア 総合相談の対応の中で、権利擁護の観点から、保健福祉センターや各種関係機関と連携をとりながら、成年後見制度活用の支援

成年後見制度に関する相談 延べ142件

イ 虐待の疑いのある要支援者に対して関係機関と協力して対応

高齢者虐待に関する相談 延べ49件

ウ 関係機関との調整会議、地域住民に対して、虐待防止・消費者被害等の勉強会を開催(延べ32回)

③予防給付に関するマネジメント

要支援1・2の要支援認定者や家族の希望、生活機能等の把握、課題の分析を行い、介護予防サービス計画を作成し地域での生活を支援。

平成30年10月現在 福島区の介護度別認定者数

介護度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
認定者数(人)	734	588	462	533	365	417	245
備考	認定総数 3,344人 平成30年度 要支援1.2ケアプラン作成 月平均761件						

④包括的・継続的ケアマネジメント支援

ア 地域ケア会議(自立支援型検討会議含む)

地域支援に関わる関係機関が支援の必要な高齢者を対象に、その人らしく地域で生活していけるよう効果的なサービスの総合調整を行い、地域支援システムとの連携を図る会議を開催した。12月より「要支援者等の生活行為の課題の解決、状態の改善に導き、自立を促す。QOL(クオリティ・オブ・ライフ:生活の質)の向上」を目指して、「自立支援型ケアマネジメント検討会議」を開催した。(19回開催)

イ 総合相談窓口連絡会議

地域の相談窓口である阪神長楽苑(下福島地域)、福島ともしび苑(野田地域)と定期的に連絡会を開催し、地域の相談状況や介護予防啓発等の情報交換を実施。(6回開催)

ウ 地域における居宅介護支援事業所の後方支援

○福島区内で業務を行う、ケアマネジャーの支援のため、相互の情報交換、研修会等を開催(15回開催)

○日常的に処遇困難な事例に関するケアマネジャーへの個別支援
延べ583件

⑤関係機関のネットワークの形成

ア 区内、近隣区の事業所の相互の情報交換・資質の向上と、住民にとってよりよいサービスをめざし、各種連絡会を開催。

○福島区ホームヘルパー連絡会 (6回開催)

○通所事業者連絡会 (6回開催)

○医療機関相談員等連絡会 (3回開催)

○訪問看護事業所連絡会 (6回開催)

○介護ホーム連絡会 (4回開催)

イ 認知症理解も含めた医療と介護と地域との連携

認知症に対する理解を深めるとともに、地域での関係機関の連携強化をめざして、シンポジウム、勉強会を実施(15回開催 在宅医療を考える会での開催含む)

ウ 医師会・歯科医師会・薬剤師会、介護事業所等と連携し「福島区在宅医療を考える会」を開催。

エ 在宅医療を考える会 世話人会(5回開催)

オ 在宅医療を考える会

開催日	内 容	参加人数
9月13日	講演会「災害医療コーディネートについて」 ～熊本地震から西日本豪雨災害を経て～ 講師：大阪急性期・総合医療センター救急診療科 松田宏樹	61人
11月15日	事例検討会 「認知症で独居の方の看取りの事例検討会」 医療機関・介護事業所・地域関係者が集まり在宅生活のあり方を考える	95人
1月16日	講演『今日からできる認知症予防』 講師 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学部 部長 島田 裕之先生	204人

カ 健康展の開催

健康展準備委員会(5回)

健康展 ～世代を超えた健康づくり～

平成30年10月27日(土) 福島区民センター ホール 516人参加

⑥介護・保健福祉サービスの広報・啓発

地域包括支援センター、総合相談窓口の周知案内チラシ、相談窓口や介護事業所、医療機関をわかりやすくまとめた情報誌「かいご・福祉情報ガイド vol. 6」3,000部を作成。介護サービスの利用や相談のできる窓口を広報・啓

発・周知した。

配布箇所：町会、病院、薬局、商店、銭湯、金融機関等 約500か所

⑦出張相談会の実施

ア 介護保険やその他の相談に関して、各地域コミュニティセンターや集会所などに出向き相談を受け付けた。(10地域月1回超 訪問)

イ 複合した相談等にも対応できるよう、自立支援協議会等と連携し、区役所1階にて出張相談会を開催。(毎月第4金曜日 年12回実施)

⑧認知症特化型地域包括支援センターの運営

認知症初期集中支援チームを置く認知症強化型地域包括支援センターとして、認知症高齢者を支援する区内ネットワークの充実を図り、大阪市が取り組む認知症にかかる地域包括ケアシステムの構築を推進し認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができることをめざす。

ア 認知症初期集中支援チーム員会議への参画…12回

イ 関係者会議の開催…3回

ウ 代表者級会議の開催…2回

エ 地域包括ケアシステム推進会議への参画…3回

(2)家族介護支援事業 家族介護者のつどい(かいご泣き笑い会)

日常介護している家族が、勉強会や施設見学・交流会を行うことにより、介護について一人で悩まないことを目的とした事業を実施。

(3)認知症初期集中支援事業

平成28年度より、大阪市全区の地域包括支援センターに設置(各区1か所)。認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で、その人らしい生活を継続することができるよう、医師と、医療・介護福祉の専門職で構成する認知症初期集中支援チームを地域包括支援センターに設置し、ご本人やご家族、民生委員、介護関係職員などからの相談を受け、初期の支援を包括的・集中的に行う。また、認知症の方を支援する地域づくりのための活動も、合わせて行う。

①チーム員の活動

適切な医療や介護サービス等に結びついていない、認知症または認知症の疑いのある方及びその家族を訪問し、アセスメントや受診勧奨、家族サポート等、ひとりひとりの状況に合わせ、支援の方向性を検討し、ご本人やご家族の自立した生活をサポートする。

②地域支援推進員の活動

認知症の方を支援するネットワークの構築・推進のため、認知症カフェの運営推進、認知症サポーター養成講座への協力など、認知症になっても暮らしやすい町づくりのための活動を、様々な機関や団体と連携しながら行う。

ア 医師・包括相談員・チーム員で、支援ケースの方向性を検討するため、

認知症初期集中支援チーム員会議開催…12回

イ 認知症初期集中チーム対応ケース(若年性認知症の相談含む)…43件

ウ ネットワーク構築・推進にかかる会議等への参画…25回

エ 事業の推進・広報啓発活動実績(案内チラシの配布等)…160か所

オ 関係者会議への参加…2回

カ 代表者級会議への参加…1回

(4)認知症サポーター地域活動促進事業(モデル事業)

福島区を含め3区がモデル事業として、平成30年4月より実施。認知症高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らしつづけられるよう、認知症高齢者を見守り、支援する体制の構築を目指すとともに、地域において認知症高齢者の支援や認知症に関する市民の正しい理解の促進を図った。

開催日	内 容	参加人数
5月17日	身元保証人協会の破綻についての勉強会	15
7月19日	福島区内の高齢者詐欺被害の状況について	9
9月20日	死後事務契約と入退院・施設入居時の支援にかかる費用について	14
11月15日	いきいき美容教室	13
1月17日	認知症初期集中支援チームの説明とアロマクラフト講座	14
3月14日	高齢者をねらった特殊詐欺の最新情報	12

①オレンジサポーターと活動場所の登録

ア オレンジサポーター登録者数…27人

イ 活動場所の登録…3か所

②オレンジパートナー企業・団体の拡大

ア 福島区キャラバン・メイト連絡会の開催…10回

イ 福島区の認知症サポーター養成計画の作成

認知症サポーター養成講座開催数…24回

認知症サポーター養成講座受講者数…300人

ウ 企業・団体への講座の受講推奨

エ オレンジパートナー企業・団体の登録…12件

オ オレンジパートナー社会貢献活動の周知 大阪市ホームページに掲載

③その他

ア VR認知症体験会 inふくしま

開催日：平成30年10月4日(木)

開催場所：福島区民センター

参加人数：42人

イ 「認知症の人をささえるまち大阪プロジェクト」開催(北・福島・住吉区合同)

開催日：平成31年2月19日(火)

開催場所：福島区民センター

参加人数：213人

(5)居宅介護支援事業

介護保険による要介護・要支援認定者の申請代行、契約に基づいてケアプランを作成し、サービス事業者との調整を図りながら支援を行なった。

平成30年度 居宅介護ケアプラン作成件数(介護予防プラン含む)

月別	作成件数(件)
4月	79
5月	78
6月	83
7月	81
8月	78
9月	77

10月	75
11月	77
12月	77
1月	75
2月	74
3月	83
合 計	937件(前年度854件)

(6)あんしんさぼーと事業(日常生活自立支援事業)

認知症や知的障がい、精神障がい等により判断能力が不十分な方への日常生活自立支援事業について、地域での利用待機の解消および今後の利用希望追加のニーズにこたえるため、区社協において相談から契約、福祉サービス等利用援助および日常金銭管理・書類等預かりサービスの提供を行った。なお、福祉サービス等利用援助、日常金銭管理サービス等の提供にあたっては、一体的に実施した。

① 相談及び対応件数 3,571件(前年度3,523件)

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	そ の 他
1,397件	952件	873件	349件

② サービス利用者数(平成30年3月末現在) 41人(前年度44人)

(7)介護予防事業

①介護予防教室事業(あいあい教室)

実 施 地 域	延べ参加人数	
	4～9月	10～3月
上福島 地域	52人	45人
福 島 地域	68人	71人
玉 川 地域	84人	85人
野 田 地域	113人	128人
吉 野 地域	86人	83人
新 家 地域	112人	90人
大 開 地域	62人	66人

鷺洲地域	74人	75人
海老江東地域	78人	75人
海老江西地域	98人	111人
合計	827人 (前年度 596人)	829人 (前年度 645人)

②介護予防運動クラブ(区社協独自事業)実施

昨年度まで実施してきた複合型介護予防教室事業の設備や講師のノウハウを活用し、区社協独自の介護予防運動事業を実施した。

実施期間：平成30年5月～平成31年3月の月・水・金曜日の全10回

対象者：区内在住の概ね60歳以上の方

定員：6人(先着順)

参加費：3,000円(全10回分)

【参加人数一覧(延べ人数)】

	月曜コース	水曜コース	金曜コース	計
ベーシックコース	99人	89人	110人	298人
ステップアップコース①	70人	80人	10人	160人
ステップアップコース②	60人	90人	30人	180人
計	229人	259人	150人	638人

介護予防運動の継続的な取り組みの重要性と参加者の継続実施の要望から、フリー教室(全5回)を実施した。

実施期間：平成31年2月～3月の火・木曜日

対象者：区内在住の概ね60歳以上の方【定員6人(先着順)】

参加費：1,500円(全5回分)

【参加人数一覧(延べ人数)】

	火曜コース	木曜コース	計
フリー教室	20人	8人	28人

③あいあい健康体操教室(区社協独自事業)

健康運動指導士による、椅子に座って行う簡単なストレッチ体操やトレーニングを通して、筋力の維持・向上を図る健康体操教室を実施した。

実施日時：金曜日(第一部13:30ー)

実施回数：43回

参加人数 : 延べ466人

参加費 : 2,500円(5回分)

(8)地域密着型通所介護事業(デイサービスセンター)

①月別利用者数

	月末契約人員(人)	利用人員(人)
H30年 4月	42	271
5月	44	294
6月	44	286
7月	44	315
8月	44	330
9月	39	252
10月	39	296
11月	38	275
12月	39	249
H31年 1月	42	228
2月	41	228
3月	41	266
合計	497人 (前年度434人)	3,290人 (前年度3,451人)

②年間利用者数

契約実人員	44人(前年度42人)
実施日数	242日/年間
平均利用者数	13.6人/日

③デイサービスセンター運営推進会議の開催

第1回:平成30年9月(書面による活動状況等の報告、評価等)

第2回:平成31年3月20日(水)午後1時30分～2時30分 あいあいセンター

(出席者)利用者本人1人、利用者の家族2人、地域関係者1人(海老江西
地区民生委員長)、地域包括支援センター1人、スタッフ3人

(9)介護保険要介護認定・障がい程度区分認定調査事業(受託外関連事業)

介護保険制度にかかる要介護認定調査、自立支援法に基づき程度区分認定調査において介護保険サービスに円滑に繋がるように調査業務をおこない、大阪市社会福祉協議会との連絡調整を行なった。

(10)子ども・子育てプラザ事業

①子育て活動支援事業

ア 子育て情報の収集・管理・提供

○講座等の情報を広報紙とホームページにより広く提供

- ・プラザだよりの発行・・・・・・・・・・・・・・・・・・12回
- ・ホームページの情報更新・・・・・・・・・・・・・・随時

○区保健福祉センターで実施される赤ちゃん広場等に出向き、情報提供

イ 地域の自主的な子育て活動への支援

○地域の子育てサークルへの活動場所の提供、遊具等の貸し出しを実施

- ・おもちゃ病院への活動場所提供・・・・・・・・・・12回
- ・遊具の貸し出し・・・・・・・・・・・・・・・・・・11回

○子育て支援ボランティア養成講座・ステップアップ講座の実施

内 容	開催回数	参加人数
子育て支援ボランティア養成講座	5回	31人
子育て支援ボランティアのための読み聞かせ講座	1回	9人

○地域子育てサロンへの出前講座の開催

- ・出前講座の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・28回

ウ 子育て中の親子の支援

○子育て中の親子が参加しやすいよう、様々な子育て支援講座を実施。

内 容	開催回数	参加人数	内子ども(人)
ベビーマッサージ	12回	279人	140人
ウキウキ身体測定	12回	936人	487人
英語を楽しもう	12回	868人	459人

親子リトミック	6回	398人	206人
似顔絵を描いてもらおう	6回	89人	45人
こいのぼりをつくろう	1回	100人	53人
七夕かざりをつくろう	1回	79人	41人
金魚・スーパーボール遊び	1回	80人	43人
おひなさまをつくろう	1回	91人	51人
歯のおはなし	1回	75人	38人
パパのための読み聞かせ講座	1回	27人	11人
教育にかかるお金の話	1回	27人	13人
食中毒予防のおはなし	1回	52人	27人
交通ルールを学びましょう	1回	30人	16人
災害に備えて学ぼう	1回	114人	60人
子どもの事故防止と応急手当について	1回	55人	29人
夏の過ごし方	1回	65人	35人
感染症を防ごう	1回	59人	30人
すくすく離乳食作り	2回	8人	(一時保育8)
親子クッキング	1回	14人	7人
マタニティヨガ	2回	8人	(一時保育1)
プレママ・プレパパ講座	2回	6人	0人
音楽コンサート	2回	121人	60人
いっしょにあそぼう(こどもの日)	1回	42人	21人
クリスマス会	1回	230人	119人
プラザまつり	1回	194人	114人
子どものほめ方・叱り方	1回	10人	(一時保育10)
ちょっと気になる子どもとの関わり方	1回	7人	(一時保育6)

エ 児童の健全育成

児童が楽しく参加できるよう、様々な行事を実施。

また、つどいの広場の乳幼児に絵本の読み聞かせを行うなどの『こどもボ

ランティア活動』も行った。

29年度より、7月21日から8月31日の夏休み期間中は月曜日と祝日も開設。プラザから遠い地域の児童対象の講座を区民センターにて実施した。

開設日：火曜～日曜（祝日・年末年始等を除く）

7月21日から8月31日の間の月曜・祝日

開設時間：火曜～金曜 …放課後～午後5時

土・日曜、春・夏・冬休み

…午前9時30分～12時、午後1時～午後5時

開設日数：304日／年間

利用人数：5,285人／年間（前年度5,476人／年間）

内 容	開催回数	参加人数
卓球の日	27回	243人
むかしあそびをたのしもう	11回	55人
ドッジボール大会	1回	7人
卓球大会	1回	4人
デザートづくり	2回	36人
プラバンをつくろう	1回	6人
アイロンビーズ	1回	13人
けん玉教室	2回	21人
スーパーボールすくい	1回	14人
自動改札機のひみつ	1回	15人
クリスマス会	1回	32人
新春お楽しみ会	1回	8人
進級お楽しみ会	1回	13人
《こどもボランティア活動》		
おはなしの時間	22回	510人
みんなでつくろう	4回	34人
一緒に遊ぼう	1回	4人

《アウトリーチ》		
自由研究のネタをさがそう	1回	11人
プラバンでキーホルダーをつくろう	1回	12人

オ 地域関連事業

併設の老人福祉センターと共催で節分工作を実施。今年度は、老人福祉センターで開催する盆踊りに乳幼児の親子が参加し、交流した。また、囲碁将棋教室と共催で将棋大会と囲碁大会を開催。

内 容	参加人数
将棋大会	25人
囲碁大会	14人
きらめきセンターの盆踊りに参加しよう	21人
節分工作と豆まき	83人

②ファミリー・サポート・センター事業

大阪市ファミリー・サポート・センター事業の支部業務を実施

活動件数 : 827件 (前年度579件)

平成31年3月31日現在の会員数

依頼会員	提供会員	両方会員
133人	57人	7人

③地域子育て支援拠点事業(つどいの広場事業)

ア 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

0歳～就学前の乳幼児とその保護者が、自由に交流できる場所を提供

開設日 : 火曜～土曜(祝日・年末年始等を除く)

開設時間 : 午前9時30分～午後2時

開設日数 : 248日/年間

利用人数 : 16,376人(うち乳幼児8,658人)/年間

内 容	開催回数	参加人数	内乳幼児
手形のお誕生日カード	13回	261人	131人
お誕生日会	12回	474人	249人

ちっち☆ひまわり	2回	81人	43人
ブックスタート	12回	227人	111人

イ 子育て等に関する相談、援助の実施

利用者が相談しやすい関係作りに努め、内容に応じて情報を提供し、関係機関との連携により利用者の不安が軽減するよう援助。

ウ 地域の子育て支援関係機関・グループとの連携

地域での子育て支援を実施するため、関係機関・グループと連携し、公共機関等に出向いて、親子交流や地域支援活動等を実施する。

内 容	開催場所	開催回数	参加人数
しゃぼん玉	福島公園	1回	145人
出張ひろば	ウイステ	2回	230人

エ ブックスタートの実施

福島区図書館とのボランティアによるブックスタート事業を実施。

④福島区において実施する独自事業

ア 子育て情報誌の編集委員会の開催。

子育て情報誌「フッピーキッズ」の編集委員会の開催(3回発行)。

子育てに関する情報提供、「おでかけカレンダー」の発行(年12回)。

イ 子育て支援連絡会における事務局

事務局として子育て支援連絡会を運営し開催(2回)。

子育て支援関係機関の情報交換等。

ウ 子育て支援団体との連携

フッピーキッズルームと共催でイベントを開催する。

内 容	開催場所	開催回数	参加人数
ファミリー講座	子ども・子育てプラザ/ あいあいセンター	2回	75人

(11) 老人福祉センター事業

5カ年の指定管理の最終年度として、平成30年度も引き続き高齢者一人ひ

とりが抱える課題や悩みの相談窓口として、あいあいセンターとの連携をはじめ、適切な相談機関につなげることを意識して、諸事業に取り組んだ。また、「福島区高齢者の生きがいと健康づくり推進事業」を実施し、一般介護予防を目的とした百歳体操をはじめとする健康づくり事業の拡充を図った。

①健康づくりと介護予防の促進事業

一般介護予防を目的とする健康づくり事業の拡充として、健康づくりの3講座を年間30回実施するとともに、講話に体操を交えた健康いきいき教室を年間10回開催。30年度は「太極拳」を実施し、新たな要望に応えた。

また、気軽に参加できる健康づくりとして、百歳体操を毎週2回、年間95回実施し2,338人が参加するなど、年々高まる高齢者の健康づくりに対する要望につなぎ目なく応えた。他に、大阪市保健所による結核検診を踏まえた健康教育や、企業とタイアップして健康チェックを兼ねた講座を実施した。

ア 健康づくり講座

事業名	開催回数	参加人数	備考
健康体操	10回	319人	5～11月 計10回
座ってビクス	10回	298人	5～11月 計10回
モビバン体操	10回	246人	5～11月 計10回
合計	30回	863人	

イ 健康・体力づくり行事

事業名	開催回数	参加人数	備考
健康いきいき教室	10回	274人	8月の夏季5回、 2月の冬季5回
卓球ひろば	39回	809人	毎月曜 ※子ども・子育てプ ラザ使用时休み
百歳体操	95回	2,338人	毎週火曜、木曜

はじめての太極拳	2回	57人	2/22、3/8
結核検診と健康教育	1回	7人	6/29大阪市保健所
大丈夫？あなたの血管年齢	1回	22人	11/27(株)ファーマ未来
気軽に健康チェック	1回	37人	2/20(株)ファーマ未来
合 計	149回	3,544人	

②生きがいづくり事業

高齢者のいきがいづくり、健康づくり、社会参加などを支援するために各種講座やイベントを開催するとともに、同好会活動の立ち上げ・日程調整・広報等を支援した。

ア 生きがい探究の機会の提供

食事・栄養をテーマに企業とタイアップした講座・教室を開催。また、施設見学、地元中央卸売市場の買物・見学や、一人で楽しめる数独の提供、思い出の写真を展示する常設の写真展等を引き続き実施した。

事業名	開催回数	参加人数	備考
防犯教室	1回	53人	4/27 福島警察
ペーパータイリング工作	1回	13人	5/15
七夕まつり	1回	206人	7/2～7/7
施設見学 大阪管区气象台	1回	29人	7/18
風鈴まつり	1回	19人	7/3～9/28
介護保険の住宅改修	1回	11人	8/31住まいの情報センター
きらめき教養講座 近江八幡バスツアー	1回	45人	10/30水郷めぐり、瓦作り体験
チーズを美味しく楽しむ会	1回	23人	11/30 雪印メグミルク
ウェルネスダーツ体験教室	4回	62人	9/5、10/3、11/28、12/5
音楽鑑賞会「きらめきコンサート」	1回	81人	1/31大阪みおつくしローターリークラブ
中央卸売市場見学	1回	20人	12/4

チャレンジ数独	常時	6,292人	1日平均21.5人
図書館本貸出	常時	28人	福島図書館
ダイヤモンドエイジ写真展	常設	54人	常設展示
合 計	14回	6,936人	

イ サークル活動支援

事業名	開催回数	参加人数	備考
俳句同好会	12回	111人	第2土曜
リズムセラピー	19回	1,301人	第2・4木曜
民謡同好会	44回	352人	第1・3月曜、第2・4木曜
民踊同好会	55回	578人	第1～4月曜、第1・3木曜
カラオケ同好会(1部・2部)	69回	883人	第1～4水曜、 第4月曜、火曜
卓球同好会(1部・2部)	100回	1,131人	第1～4月・火曜・金曜、 第1土曜
映画同好会	20回	113人	第1・3金曜
銭太鼓同好会	23回	221人	第1・4土曜
フラダンス同好会	38回	200人	第1・3木曜
絵画同好会	24回	246人	第2・4木曜
詩吟同好会	23回	263人	第2・3土曜
区老連コーラス同好会	26回	776人	火曜(月2,3回)
書道同好会	13回	167人	第2月曜
生花同好会	10回	92人	第4水曜(8月休み)
区老連ディスコン同好会	34回	617人	毎月曜 ※子ども・子育てプラザ使用时休み

シニア元気クラブ (健康体操同好会)	30回	802人	第1・3金曜 (2回以上の月有り)
折り紙同好会	24回	420人	第2水曜、第3土曜
書道細字同好会	14回	253人	第4月曜
大正琴同好会	21回	132人	第1・3月曜
ティーセレモニー	12回	48人	第3木曜
初級囲碁教室	41回	247人	毎月曜
ゲーム1・2同好会	73回	957人	第1～4木曜、第2・第4金曜
ネット囲碁同好会	94回	630人	毎週水・土曜
笑いヨガ同好会	15回	230人	第2・4木曜(8・12月休み)
新舞踊同好会	32回	161人	第1・2・4火曜
シニアフィットネス (いきいき体操同好会)	23回	622人	水曜 月1, 2回
合 計	889回	11,553人	

③相談・情報機能の充実

ア 身近な相談体制づくり

高齢者の身近な相談窓口として、「あいあいセンター」をはじめ、関係機関につなげる機能の充実に努めた。30年度は特に、利用者との情報交換のなかで、相談事項の拾い上げを行い、高齢者に係る問題をテーマにした講座を開催した。

イ 公的情報ならびに健康および生活関連の情報提供

福島区役所、警察署、消防署の公的機関の情報を高齢者に適時、適確に伝えることを目的に当該年度も引き続き、区長と高齢者の対話集会「きらめきミーティング」の開催をはじめ、防犯・交通安全、防災・防火等の啓発を図る情報提供を行った。

④利用者の自律したセンター運営の推進

同好会の代表者による「利用者代表者会」を設けて、利用者自らが文化祭や七夕まつり等の行事に参画し、企画立案ならびに実行まで、利用者が自律

的にセンター運営に関われるように努めた。

⑤老人クラブ活動の支援

単位老人クラブの連合組織である区老人クラブ連合会の業務及び同会が実施する行事を支援した。30年度は福島区老人クラブ60周年記念大会を支援した。

⑥世代間交流事業

区内の保育所・学校園の子どもと高齢者がふれあう行事、イベントを実施。

事業名	開催回数	参加人数	備考
お誕生日会（海老江保育所）	4回	317人	6/21、9/20 12/20、3/14
盆踊り大会 (海老江保育所、子ども・子育てプラザ)	1回	82人	8/8
きらめき文化祭(海老江保育所)	1回	528人	11/12～11/15
節分お面づくりと豆まき (子ども・子育てプラザ)	1回	83人	1/25
合計	7回	1,010人	

⑦合同事業

事業名	開催回数	参加人数	備考
福島区老連60周年記念大会	1回	約600人	10/3
福島区老連カラオケ大会	1回	185人	1/29
第7回きらめきミーティング	1回	41人	3/6福島区役所
特殊詐欺撃退カルタ大会	1回	41人	3/6区役所、警察、区社協
介護ポイント事業登録研修	1回	5人	3/29市社協地域福祉課
合計	5回	872人	

⑧その他

ア 囲碁将棋大会(同好会主催定例会)

囲碁：12回 計236人 将棋：12回 計292人

イ 春・秋カラオケ発表会(カラオケ同好会主催) 2回 計108人

[実績報告]

①サービス向上策

施設運営委員会を通じて地域の意見・要望を広く求めるとともに、同好会等の利用者代表者会議を適宜開催し、利用者の意見をセンター運営に反映させてサービス向上に努めた。

②利用促進策

センター行事等の情報を提供する「センターだより」の内容の充実に努めたのはじめ、市・区社協のホームページ及び区の「広報ふくしま」、区社協の「あいあいだより」を活用した広報活動の充実に努めた。また利用者個々のニーズ把握に努め、行事等の立案・運営に反映する事により、利用率向上に努めた。

③利用者の満足度の把握について

代表者会議を通じて意見を直接収集するとともに、アンケートの適宜実施によってニーズの把握に努めた。

④平等利用の確保について

「施設運営委員会」を開催し、意見・助言を聴取して平等・公正な運営に努めた。

⑤他施設との連携、地域との連携、市民・NPOとの協働等

併設の海老江保育所、子ども・子育てプラザをはじめ、福島区食生活改善推進員協議会、福島区健康推進協議会と連携したお誕生日会を定期的に行なった。

⑥建物の維持管理の取組みについて

29年度から続く、広間カーペット改修工事を行った。また日常の清掃時の点検を基本に定期的に館内巡視を実施し、引き続き軽微なものについては職員が修繕を行った。

⑦危機管理について(事故防止等安全対策、火災時緊急時の対応)

当センターは、区役所との協定によって災害時に福祉避難所として供用するため、2月24日にはあいあいセンターと連携して大規模災害を想定した災害訓練に参加、福祉避難所開設の実地訓練を行なった。

⑧個人情報の保護・情報公開について

「大阪市個人情報保護条例」、「大阪市情報公開条例」をはじめ、当協議会の「個人情報保護規定」により、情報の漏洩や利用証の管理を的確に行い、引き続き個人の権利・利益の侵害防止に努めた。

⑨過去4ヵ年度の利用者数の推移

(人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
年間利用者(延べ人数)	32,055	31,382	31,311	29,895
月平均(延べ人数)	2,671	2,615	2,609	2,491
一日平均(延べ人数)	109.4	107.5	106.8	102.4

※平成30年度は7、8、9月天候不順、台風の影響により利用者数が減る結果となる。